

## 日本における目録法の動向

渡邊 隆弘  
(帝塚山学院大学)

watanabe@hcs.tezuka-gu.ac.jp

### 目次

1. 「日本目録規則」の歴史と現状
2. 日本における目録作成の現状
3. 新しい目録法の潮流と日本  
FRBR、ICP、RDA、ISBD
4. 「日本目録規則」の次期改訂
5. おわりに

### ☆日本目録規則 Nippon Cataloging Rules (NCR)

最新版: 1987年版改訂3版(2006)  
日本図書館協会(JLA) 445ページ

序説、総則(0章)

第I部 記述 (Description)  
全13章+附則 約300ページ

第II部 標目 (Headings)  
全6章+附則 約40ページ

第III部 排列 (Filing)  
全5章 約10ページ

付録、索引

### ☆日本目録規則 1987年版改訂3版(2006)

第I部 記述 (Description)

- |            |                                       |
|------------|---------------------------------------|
| 1章 記述総則    | (General Rules)                       |
| 2章 図書      | (Monographs)                          |
| 3章 書写資料    | (Manuscript)                          |
| 4章 地図資料    | (Cartographic materials)              |
| 5章 楽譜      | (Notated music)                       |
| 6章 録音資料    | (Sound recording)                     |
| 7章 映像資料    | (Motion pictures and videorecordings) |
| 8章 静止画資料   | (Graphic materials)                   |
| 9章 電子資料    | (Electronic resources)                |
| 10章 博物資料   | (Three dimensional materials)         |
| 11章 点字資料   | (Tactile materials)                   |
| 12章 マイクロ資料 | (Microforms)                          |
| 13章 継続資料   | (Continuing resources)                |

### ☆日本目録規則 1987年版改訂3版(2006)

第II部 標目 (Headings) 付録 (Appendix)

- |            |                       |
|------------|-----------------------|
| 21章 標目総則   | 1. 句読法、記号法            |
| 22章 タイトル標目 | 2. 略語表                |
| 23章 著者標目   | 3. 国名標目表              |
| 24章 件名標目   | 4. 無著者名古典・<br>聖典統一標目表 |
| 25章 分類標目   | 5. カード記入例             |
| 26章 統一タイトル | 6. 用語解説               |

第III部 排列 (Filing)

- 31章 排列総則
- 32章 タイトル目録
- 33章 著者目録
- 34章 件名目録
- 35章 分類目録

### ☆日本における標準目録規則の歴史

- |      |                                 |         |
|------|---------------------------------|---------|
| 1893 | 『和漢図書目録編纂規則』<br>日本文庫協会(現JLA)による |         |
| ...  |                                 |         |
| 1943 | 『日本目録規則』(1942年版)<br>青年図書館員連盟による | NCR1942 |
| 1952 | 『日本目録規則1952年版』<br>以後、日本図書館協会による | NCR1952 |
| 1965 | 『日本目録規則1965年版』                  | NCR1965 |
| 1977 | 『日本目録規則新版予備版』                   | NCR1977 |
| 1987 | 『日本目録規則1987年版』                  | NCR1987 |

☆ 目録規則の歴史: NCR1965まで

- ◇ 初期の規則は、書名基本記入方式 (Title main entry)
- ◇ 次第に著者基本記入方式へ (Author main entry)  
NCR1942、NCR1952はともに著者基本記入
- ◇ 国際的標準化への対応  
1961 「パリ原則」(Paris Principles)
  - ◇ NCR1965  
和洋書をとともに対象  
比較的詳細な規則  
著者基本記入方式(パリ原則に忠実)

☆ 日本目録規則 1965年版 NCR1965

1章	総則	11章	図書館の記載事項
2章	1個人の著作	12章	書名・著者・版等の表示
3章	個人著者名の形式	13章	出版事項
4章	1団体の著作	14章	対照事項
5章	団体著者名の形式	15章	注記事項
6章	多数著者の著作	16章	補助記入のトレーシング
7章	逐次刊行物	17章	逐次刊行物の記載事項
8章	無著者名の著作	18章	地図の記載事項
9章	既存の1著作に 関係のある著作	19章	楽譜の記載事項
10章	種類の形式の著作	20章	記入の排列

☆ 目録規則の歴史: NCR1965からの転換

- ◇ NCR1965への批判  
1950年代～ 基本記入方式の是非をめぐる議論  
記述独立方式(等価標目方式)  
(Description independent; Alternative heading)  
1960年代～ 公共図書館サービスの発展の中で  
目録簡略化の主張
- ◇ 記述独立方式の規則へ
  - ◇ NCR1977 和書だけを対象とし、比較的簡略  
「記述ユニットカード方式」(記述独立)  
「新版予備版」(「本版」のための「予備」的な版)

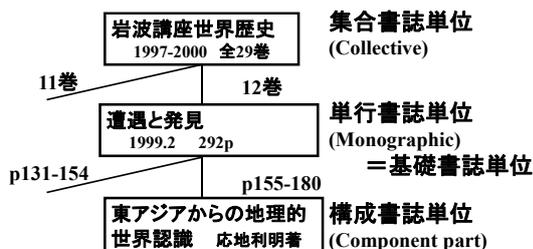
☆ 目録規則の歴史: NCR1987の登場

- ◇ 「予備版」からの「本版」化に10年  
情報環境の変化の中で、大幅な改訂に
- ◇ NCR1987の特徴  
記述独立方式(「記述ユニット方式」)  
「多様な検索を可能とする機械可読目録に、  
より一層適した方式」(序説)  
ISBD区切り記号法(punctuation)の導入  
多様な資料への対応  
比較的詳細な規則(特に書誌記述)  
和漢書・洋書双方を対象  
「書誌階層」「書誌単位」の考え方の導入

☆ NCR1987の「書誌階層」

(Bibliographic hierarchy)

- ◇ 記述対象資料に、複数の書誌単位(Bibliographic unit)からなる階層構造を見出す。



☆ NCR1987の「書誌階層」

(Bibliographic hierarchy)

- ◇ 記述対象をまず重層的に把握する  
基礎書誌単位を中心とする記述  
書誌単位ごとに独立した記述を行う道も  
書誌ユーティリティ NACSIS-CAT

遭遇と発見 : 異文化への視野 / [榊山統一ほか執筆]<ソウグウ ト ハクケン  
: イブンカ エノ シヤ>. -- (BA40102393)  
東京  
xvii, 岩波講座世界歴史 / 榊山統一 [ほか] 編<イワナミ コウザ セカイ レキシ>.  
注記: -- (BA32548546)  
ISBN: 東京: 岩波書店, 1997-2000  
著者目録: 29冊; 22cm -- 別巻  
分類: 注記: 別巻: 総目次・文献索引; 子書誌あり; 月報あり  
DC15 ISBN: 4000108492 (別巻)  
件名: 別タイトル: 世界歴史: 岩波講座  
著者目録: 榊山, 統一 (1941-) <カバヤマ, コウイチ>  
分類: NDC8: 209; NDC9: 209; NDLC: GA32  
件名: 世界史

## ☆ 目録規則の歴史: NCR1987の展開

- ◇ 『日本目録規則1987年版』
- ◇ 『日本目録規則1987年版 改訂版』(1994)  
未刊の章(「書写資料」「静止画資料」「博物資料」)  
の完成など
- ◇ 『日本目録規則1987年版 改訂2版』(2001)  
9章「コンピュータファイル」を「電子資料」に  
(全面改訂) \* ISBD(ER) (1997)に準拠
- ◇ 『日本目録規則1987年版 改訂3版』(2006)  
13章「逐次刊行物」を「継続資料」に  
(全面改訂) \* ISBD(CR) (2002)に準拠  
和漢古書に関する規定を整備  
(2章「図書」、3章「書写資料」)

## ☀ 目次

1. 「日本目録規則」の歴史と現状
2. 日本における目録作成の現状
3. 新しい目録法の潮流と日本  
FRBR、ICP、RDA、ISBD
4. 「日本目録規則」の次期改訂
5. おわりに

## ☆ 日本における目録作成の現状

- ◇ 国立国会図書館(NDL: National Diet Library)  
「日本全国書誌」「JAPAN/MARCの作成」
- ◇ 公共図書館  
「民間MARC」データの購入が中心
- ◇ 大学図書館  
書誌ユーティリティNACSIS-CATによる  
共同分担目録  
(データをダウンロードして各大学のOPACを稼働)  
三者がばらばらに動いているのが  
大きな問題

## ☆ 目録作成: 国立国会図書館

- ◇ 日本全国書誌 1948～(「日本全国書誌」の名称は1981～)  
2007～ Web版のみ
- ◇ JAPAN/MARC 1981～  
UNIMARC準拠のフォーマット

作成の遅さ(タイムラグ)  
CIP (Cataloging in publication)の制度なし  
公共図書館等では使えない  
MARCフォーマットが特異  
2012よりMARC21に移行の予定

## ☆ 目録作成: 公共図書館

- ◇ 民間MARCの利用  
TRC(図書館流通センター)など数社  
書誌データ、典拠データを自社で作成し、有料提供  
目録規則を超えるデータも  
内容紹介、内容細目、著者紹介など
- ◇ 目録業務はアウトソーシング(データ購入)  
自館作成は、地域資料などのみ

## ☆ 目録作成: 大学図書館

- ◇ NACSIS-CAT(目録所在情報システム) 1985～  
国立情報学研究所(NII)が運営  
官営の書誌ユーティリティ(Bibliographic utility)  
全国の大学の大多数が参加し、共同分担目録  
概数: 書誌1,000万、所蔵11,000万、典拠150万  
共同分担による負担軽減(効率化)  
総合目録データベースの形成(ILLに活用)
- ◇ 各種MARCの「参照」利用  
JAPAN/MARC、TRC MARC  
USMARC、UKMARC、CHMARC、KORMARC...  
ただし、入力軽減に利用されるだけ  
元のMARCレコードとの同期は保障されない

## ☆ 目録作成と目録規則

- ◇ 国立国会図書館、公共図書館(民間MARC)  
NCR1987を適用  
ただし、書誌階層の考え方は徹底していない
- ◇ 大学図書館(NACISIS-CAT)  
和資料はNCR1987、洋資料はAACR2で記述  
ただし、洋資料も基本記入方式は採用せず  
書誌階層の考え方  
集合・単行書誌単位をともにレコード作成(前述)

## ☆ 目録作成の今後

- ◇ 「公共的書誌情報基盤」構想 2010～  
JAPAN/MARCをもっと普及させ、「一元化」?  
「NDL新着図書情報」 2010.10～  
納本(Legal Deposit)後数日で、  
簡略書誌レコードを作成して一般公開

国立国会図書館サーチ 検索窓  
メインページ > NDL新着図書情報 > NDL新着図書情報

NDL新着図書情報  
国立国会図書館に納本された国内刊行図書の基本書誌情報を、  
タブ区切り形式のテキストファイルで提供するものです。

ダウンロードファイル	収録書誌データ件数
2010年12月24日分	191
2010年12月22日分	187
2010年12月21日分	304
2010年12月20日分	967

## ☀ 目次

1. 「日本目録規則」の歴史と現状
2. 日本における目録作成の現状
3. 新しい目録法の潮流と日本  
FRBR、ICP、RDA、ISBD
4. 「日本目録規則」の次期改訂
5. おわりに

## ☆ 新しい目録法の潮流と日本

- ◇ 日本における紹介、研究  
FRBR(「書誌レコードの機能要件」) 1997  
RDA(Resource Description and Access) 2010
- ◇ 日本としての参加(JLA目録委員会)  
ICP(国際目録原則) 2009  
ISBD(国際標準書誌記述)の改訂(統合版) 2011?
- ◇ 総合的な動向紹介

渡邊隆弘「目録法の再構築をめざして」『図書館雑誌』103(6)、2009.6. p.376-379.  
谷口祥一、嶋田拓哉「書誌情報とメタデータ:理論、ツールのわが国における展開」  
『図書館界』61(5)、2010.1. p.556-571、\* 文献レビュー

## ☆ 日本におけるFRBR紹介、研究

網羅的列挙では  
ありません

- ◇ 日本への紹介(発表直後から注目)  
和中幹雄「AACR2改訂とFRBRをめぐって:目録法の最新動向」  
『カレントアウェアネス』274、2002.12. p.11-14  
和中幹雄「FRBRとはなにか:その意義と課題」『現代の図書館』42(2)、2004.6.  
p.115-123.
- ◇ 日本語訳  
和中幹雄・古川暎・永田治樹訳『書誌レコードの機能要件』日本図書館協会、  
2004.3. 121p. \* 2008年にウェブ公開
- ◇ 概念モデルの検討  
谷口祥一「書誌の実体設定における二つの観点から見た三層構造モデルとIFLA  
FRBRモデル」『日本図書館情報学会誌』45(2)、1999.7. p.45-60  
谷口祥一「テキストレベル実体を基盤にした概念モデルと書誌レコード作成」  
『図書館目録とメタデータ』勉誠出版、2004.10. p.57-77  
嶋田拓哉「電子資料を対象にしたFRBRモデルの展開」『日本図書館情報学会誌』  
52(3)、2006.9. p.173-187  
和中幹雄「FRBRにおける「著作」概念の特徴とNCR改訂の方向性」  
『資料組織化研究-e』59、2010.12. p.33-42.

## ☆ 日本におけるFRBR紹介、研究(2)

- ◇ 最近の、応用面も含めた紹介  
谷口祥一「FRBRのその後:FRBR目録規則? FRBR OPAC?」  
『TP&Dフォーラムシリーズ』17、2008.7. p.3-23.
- ◇ FRAD(典拠データ)、FRSAD(主題典拠データ)紹介  
和中幹雄「目録に関わる原則と概念モデル策定の動向」『カレントアウェアネス』  
303、2010.3. p.23-27.
- ◇ 日本の目録のFRBR化を検討  
橋詰秋子「FRBR からみた日本の図書館目録における著作の傾向:慶應義塾大  
学OPACを例として」『Library and information science』58、2007. p.33-48.  
宮田洋輔「日本の図書館目録における書誌的要素:J-BISCにおける調査と先行  
研究との比較分析」『Library and information science』61、2009. p.91-117.  
谷口祥一「FRBR OPAC構築に向けた著作の機械的同定法の検証:  
JAPAN/MARC書誌レコードによる実験」『Library and information science』  
61、2009. p.119-151.  
橋詰秋子「FRBRからみたJapan/MARCの特徴:「著作」を中心に」  
『日本図書館情報学会誌』55(4)、2009.12. p.213-229

## ☆日本におけるRDA紹介、研究

網羅的列挙ではありません

### ◇改訂過程を追いつつ検討(古川肇氏の研究)

- 古川肇「未来の記述規則: AACR3第1部案からRDA第1部案へ」  
『資料組織化研究』52, 2006.7. p.1-16.  
古川肇「未来の書誌レコードに関する規則: RDA第1部案からRDAパートA案へ」  
『資料組織化研究』53, 2007.3. p.25-34.  
古川肇「未来の書誌レコードに関する規則(続): メタデータ・スキーマとの調整へ」  
『資料組織化研究』54, 2008.1. p.15-26.  
古川肇「未来のアクセスポイントに関する規則 構造の再構築へ」  
『資料組織化研究-e』56, 2008.12. p.12-22.  
古川肇「未来の書誌レコードおよび典拠レコードに関する規則: RDA全体草案の完成」  
『資料組織化研究-e』57, 2009.9. p.20-35.  
古川肇「書誌レコードおよび典拠レコードに関する規則の成立: RDAの完成」  
『資料組織化研究-e』59, 2010.12. p.13-32.

### ◇その他

- 鈴木啓子「世界に向けての新しい目録規則: RDA策定の動向--ある米国目録司書からの報告」  
『現代の図書館』46(3), p.166-171.  
松井純子「RDA改訂に見るFRBRの具体化: 新時代の目録規則を考える」  
『図書館界』62(2), 2010.7. p.182-192.

## ☆日本におけるICP(国際目録原則)紹介、研究

網羅的列挙ではありません

### ◇策定段階から紹介

- 稲濱みのる「新しい国際目録原則に向けて」  
『カレントアウェアネス』286, 2005.12. p.4-5.  
永田治樹ほか「第4回IFLA国際目録規則専門家会議報告」  
『図書館雑誌』100(12), 2006.12. p.822-825.  
橋詰秋子「書誌レコードの機能要件(FRBR)と新しい国際目録原則覚書: 目録の今後の方向性」  
『現代の図書館』46(3), 2008.9. p.159-165.

### ◇完成後の研究

- 和中原達「国際目録原則」における「一般原則」について  
『資料組織化研究-e』58, 2010.3. p.1-15.  
渡邊隆弘「国際目録原則覚書」策定過程の諸論点: 草案の変遷から  
『資料組織化研究-e』59, 2010.12. p.1-12.

## ☆ICPに対する日本の関与

### ◇IME ICC4 (ソウル 2006.8)

- 日本から11名参加  
(うちJLA目録委員会委員5名)  
その後、各段階の草案に投票

### ◇最終のWorld Wide Review (2008)

- JLA目録委員会から意見提出

### ◇日本語訳の作成

- 国立国会図書館、JLA目録委員会協力  
英語版よりわずかに遅れて公開

## ☆ISBD 統合版(Consolidated ed.)に対する日本の関与

### ◇JLA目録委員会からIFLA ISBD RGの窓口委員(liaison member)を出す

### ◇日本語事例の作成、チェック

### ◇その他のコメント

- Jephthe ; Le cinque piaghe di Christo / Antonio Draghi. Oratorio di S. Pietro piangente / Pietro Andrea Ziani  
Rhapsody in blue ; Prelude for piano no. 2 / George Gershwin. Symphonic dances from West Side story / Leonard Bernstein  
Nuclear disarmament ; Politics of peace / principal investigator, Thomas Cashdollar. Strategies for defense / principal investigator, Damien Toffel  
土佐日記 / 紀貫之著; 池田弥三郎訳. 蜻蛉日記 / 藤原道綱母著; 室生犀星訳  
채근담 / 홍자성 저; 조지훈 역. 생활의 발견 / 임영당 저; 박일중 역

## ☀ 目次

1. 「日本目録規則」の歴史と現状
2. 日本における目録作成の現状
3. 新しい目録法の潮流と日本  
FRBR, ICP, RDA, ISBD
4. 「日本目録規則」の次期改訂
5. おわりに

## JLA目録委員会の改訂方針表明(2010.9) 「抜本的見直しによる「201X版」が必要」

『日本目録規則』の改訂に向けて

2010年9月17日  
日本図書館協会目録委員会

### 1 趣旨

『日本目録規則(NCR)』は、1987年版刊行以来20年以上が経過した。この間に、目録委員会は、電子資料、継続資料の各章の大幅改訂と和漢古書に関わる規定の充実などを主な内容とする3度の改訂を行った。しかしながら、近年の目録世界の大きな変化に対処していくためには、もはや章単位の改訂では対応できない状況であり、当委員会は、抜本的見直しによる「201X年版」が必要であると認識している。

また、当委員会は、NCR1987年版改訂作業と並行して、海外の動向を注視し議論を重ねながら、NCRの問題点についても個別に検討を継続してきたが、2009年度前半にはRDA草案のレビューをほぼ終了することができた。現在は、いよいよNCR全体の改訂作業を目指した本格的な検討を開始した段階である。ついては広くご意見をいただくために、現時点での目録委員会の考え方をここに提示するものである。

<http://www.jla.or.jp/mokuroku/index.html>

### ☆NCR改訂方針(1): 改訂の必要性

- ◇ 近年の目録世界の大きな変化に対応するため  
1987年版の修正(章単位の改訂)では無理  
抜本的見直しによる「201X年版」が必要
- ◇ これからの目録はどうあるべきか  
「資料のもつ潜在的利用可能性を最大限に顕在化  
する道具であるべき」  
具体的には、  
資料の多様化への対応  
典拠コントロール (Authority control) の拡大  
リンク機能の実現

### ☆NCR改訂方針(2): 改訂の目標

- ◇ RDAの翻訳ではなく、新「日本目録規則」  
FRBRモデルに基づきながら、  
日本の状況を踏まえた、現実的な規則を
- ◇ 改訂上の留意事項  
国際標準との整合性  
ICP準拠、ISBDとの整合性も  
現行NCRを評価し、その結果を反映  
実務的な規則(論理的で平明な規則)  
規則を、より利便性の高い方式で提供

### ☆NCR改訂方針(3): 改訂の主な内容

- \* 網羅的ではなく、2010年時点での委員会の合意事項を列挙
- ◇ 規定範囲は、エレメント(Element) の定義に限定  
エンコーディング(Encoding)は扱わない
- ◇ エレメントの増強  
注記 (Note) を精査し、必要に応じてエレメント化
- ◇ FRBRモデルへの対応  
書誌レコードの基盤は体現形 (Manifestation)  
基本記入方式か記述独立方式か? の問題は、  
FRBRの各実体(Entity) の位置づけの問題として、  
今後検討していく

### ☆NCR改訂方針(4): 改訂の主な内容

- ◇ 典拠コントロールと標目  
典拠コントロールを重視  
現行の「統一タイトル (Uniform title)」も見直し  
\* NCR1987では「無著者名古典」(Anonymous classic)  
と「音楽作品」のみに適用
- ◇ 関連 (Relationship)  
FRBRモデルの関連規定への対応を今後検討  
書誌階層の考え方は維持  
FRBRモデルでは「関連」の一種(全体/部分)  
→ 「関連」全体の検討の中で考える  
構成書誌単位 (Component part) の規定整備



### 目次

1. 「日本目録規則」の歴史と現状
2. 日本における目録作成の現状
3. 新しい目録法の潮流と日本  
FRBR、ICP、RDA、ISBD
4. 「日本目録規則」の次期改訂
5. おわりに